

平成27年度 星が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- ① 健康で気力のある生徒を育成する。
- ② 学力豊かで創造力のある生徒を育成する。
- ③ 勤労を尊び責任感のある生徒を育成する。
- ④ 国際感覚に秀で思いやりのある生徒を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校の自主的・自律的な経営の下，21世紀の知識基盤社会を生きる人間を育てるに当たって，確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことを重視し，未来を切り拓く力を育てる教育を実践する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「1 生徒の命と笑顔を守り，育てる 2 教師の命と笑顔を守り，共に成長する 3 みんなで子どもを育てる 4 出合いを育てる」という4つの基本的な姿勢で学校経営に取り組む。平成26度は保護者や地域の協力，教職員の意欲的な取組によって学校評価においては良好な成果が得られたが，その反面，教職員の多忙感がさらに増したと感じる。平成27年度については，生徒と向き合う時間の確保のために「意欲と精選のバランス」を図りながら，学校経営に努めたいと考える。

- （1）確かな学力の定着・授業時数の確保と学習指導要領に基づく授業の展開と工夫，個に応じた指導の中で，基礎的・基本的な知識・技能等の育成や思考力・判断力・表現力等の育成，さらには指導と評価の一体化を推進し，確かな学力の定着を図り，「わかる授業」の推進に努める。
- （2）心の教育の推進・読書活動，あいさつ運動，心に響く道徳教育，国際理解教育，福祉教育等の充実を図り，教育活動全体をとおして，思いやりにあふれた心の教育を推進する。
- （3）生徒指導の充実・生徒とのコミュニケーション，カウンセリングマインドを重視し，生徒理解に努める。生徒の自律を促すための「育てる生徒指導」（自己指導力・自己肯定感の育成）の推進を図る。
- （4）健康・体力の向上・食育の充実と健康的な生活を送るための指導の充実を図る。また，新体力テストの結果を活用し，進んで運動に取り組む態度の育成と体力の向上を図る。
- （5）特別支援教育と教育相談の充実・特別支援教育に対する理解を深め，一人一人のニーズに対応した支援活動の充実が図れるよう，校内特別支援委員会を中心とした組織的な取組の推進や教育相談の充実による不登校の防止・解消に努める。
- （6）家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進・地域の教育力を生かし，家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりに努めるとともに，地域に信頼される学校づくりを推進する。
- （7）教職員の使命感の発揮と資質の向上・時代や生徒・保護者のニーズに応えるため，教職員としての使命感に徹し，協働体制のもとに各自の特性の発揮と資質の向上に努める。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】 「未来を切り拓く豊かな社会性の育成」

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・自らの課題を組織的に解決できる自主的，自律的な学校経営―意欲と精選のバランス―

【学 習 指 導】

○意欲的に学習に取り組む生徒の育成

【児 童 生 徒 指 導】

○家庭・地域と学校が連携し，生徒一人一人の豊かな心の育成

- ・生徒の良さを見つけ，褒めることを通して，可能性を引き出し自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

- ・生徒が自己の健康・体力を的確に理解し，進んで健康・体力の向上に励む生徒の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】肯定的回答80%	生徒会活動の充実を図り、特に学校行事等では、生徒の自発的・自治的活動を積極的に取り入れ、終了後に成就感を味わわせる。	B	【達成状況】教職員・保護者・地域住民で90%を超え、高評価であった。生徒の評価はやや下がり、自由記述に教師のあいさつを指摘する意見が複数みられた。 【次年度の方針】28年度は、海外生徒との交流を機会に、より明るく活気のある学校づくりに努める。教職員が自らあいさつを励行し、明るい雰囲気作りに取り組む。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】肯定的回答80%	学年、教科、校務分掌等職員間で率直にアドバイスしあえる雰囲気作りに努め、お互いに力量を高めあう職員室にする。	B	【達成状況】全ての回答者で80%を超え、高い評価であった。特に、教職員と生徒の肯定的評価が高い。教職員は明るい雰囲気と協力し合っており、校内研修も盛んであった。 【次年度の方針】更に学習指導、評価の工夫改善を進めていく。
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】肯定的回答80%	授業・日常生活の決まりやマナーの状況を細かい点も全職員で確認し、情報を周知するとともに休み時間等の巡視を行っていく。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は90.9%、生徒の肯定的回答は75.8%と開きがあり、生徒の回答が6ポイント下がった。教職員の目の届かないところでルール・マナーが守られていないものと思われる。 【次年度の方針】生徒の規範意識を高める指導に努めていく。特に1年生には細かく丁寧な指導が必要。
	A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】肯定的回答80%	I C T活用や言語活動の充実等育てたい力を明確にし、教えて考える授業を実践するため、教科の枠にとらわれずに授業研究会を行い、職員相互に学びあい、授業力を高める。	B	【達成状況】教職員、生徒ともに肯定的な割合が80%を超えるが、保護者の割合は77.1%だった。 【次年度の方針】学力の二極化が進む現状を踏まえ、基礎・基本の定着と家庭学習の習慣をつける実践を続けると同時に、保護者への啓発を行っていく。（学習日より、学級懇談等の利用）
	A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】肯定的回答80%	いじめに関する道徳の授業を全クラスで実施し、人権教育の観点から「言葉」の指導を日常的に行っていく。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答は88%と高いが、保護者の肯定的回答が56%と低い。教職員のいじめへの取組が保護者に十分伝わっていないと考えられる。 【次年度の方針】いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、いじめの起こらない集団作りに力を入れる。また、学校の取組を発信する。
	A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】肯定的回答80%	教育課程の適切な実施に向け、校内外の行事を調整し、週報等に計画を明示する。授業交換を積極的に行い、授業時数の確保に努める。	B	【達成状況】教職員・保護者・地域住民で90%を超え、生徒も約86.9%と高い評価であった。授業実施時数の平準化も図られ、生徒や教師の負担を軽減できた。 【次年度の方針】今後も、授業時数の確保や行事・テスト等、バランスのとれた教育課程を実施していく。
	A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】肯定的回答80%	学校からの通信を積極的に発行したり、ホームページの活用を充実させる。また、総合的な学習の時間で地域人材と連携した体験活動を実践し、地域の資源を活用する。	A	【達成状況】全ての回答者で90%を超え、高評価であった。学校HPがCMSに移行し、情報提供の環境が向上した。 【次年度の方針】学校紹介や各種便りなど可能なものを、学校HPを活用して積極的に発信していく。

教育活動の状況		A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】肯定的回答 80%	地域協議会の事業や活動をPTAや保護者会等で報告し、ボランティア活動への理解と推進を図り、人材バンクを作成する。	B	【達成状況】生徒が 78.3%と微増、それ以外が 80%を超えた。総合的な学習などで地域の人材を活用できた。図書・校外持久走の立哨・花壇等の環境整備で地域住民のボランティアを組織し活用できた。 【次年度の方針】今後も、地域協議会を軸に、総合的な学習や創立記念行事などで地域・企業との連携を深め、教育活動や学校運営の活性化を図っていく。
		A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】肯定的回答 80%	校内の環境美化のために、地域の教育力を活用し、生徒ともに美化活動を行う。清掃活動の充実を図る。	B	【達成状況】教職員以外は数値目標を超える肯定的な回答であったが、教職員は 69.1%と極端に低かった。 【次年度の方針】生徒指導、校内・教室環境係と連携して、より良い学習環境づくりをすすめる。
		B 1 教職員は、あいさつや対応が丁寧で誠実である。 【数値指標】肯定的回答 80%	誰に対しても気持ちのよいあいさつをするとともに、相手の気持ちになって、誠実に接するよう努める。	B	【達成状況】教職員・保護者で 90%、生徒で 80%を超えたものの、地域住民は昨年度より 9.7 下がり、77.8%だった。保護者・生徒の自由記述に、教師のあいさつに関する指摘が複数みられた。 【次年度の方針】来校者へのあいさつや声かけ、地域行事等への参加に心がけ、地域住民との交流を図っていく。
		B 2 生徒・教職員は時間を守り時間を大切に行動している。 【数値指標】肯定的回答 80%	朝の読書活動から日課時間を守り、チャイムとともに授業が始められるように職員・生徒ともに時間を守った行動ができるようにする。	B	【達成状況】全ての回答者で 80%を超え、高い評価であった。ただ、部活動後の完全下校時刻など不十分な点もある。 【次年度の方針】授業の開始、部活動の完全下校時刻の順守を全職員で徹底していく。
		B 3 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。 【数値指標】肯定的回答 80%	指導力の向上を目指した研究プロジェクトに今年も取り組み、大学からの指導者の招聘や全ての教科の校内授業研究会等を実施する。	B	【達成状況】教職員・生徒ともに高評価であるものの、保護者の肯定的な回答割合は 77.7%だった。 【次年度の方針】校内の授業力向上Pは継続する。授業研究会は各教科の先生が必ず参加し、教科以外の先生とともに指導法を学ぶ場とする。学習便りに研究会の様子を掲載することで保護者への啓発とする。
	生徒生活	A 10 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】肯定的回答 80%	あいさつ運動の推進を掲げる生徒会活動が活発になり、生徒同士がすすんであいさつができるように支援する。月ごとに生活委員会と共に全職員が通学路で「あいさつ運動」を行う。	B	【達成状況】教職員・生徒で 90%、保護者で 85%を超えたものの、地域住民は 78.6%だった。 【次年度の方針】年度当初から、あいさつの励行や良き伝統を維持することの大切さを学年・学級・部活動を通して指導していく。
		A 11 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】肯定的回答 80%	時と場に応じた言葉使いについて、全職員が様々な場面で指導していく。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答が 77.8%と数値指標より低い。時と場に応じた言葉遣いが不十分な生徒がみられる。 【次年度の方針】敬語の使い方、特に「です」「ます」の丁寧な言葉遣いを指導していく。
		B 4 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識を高めている。 【数値指標】肯定的回答 80%	積極的な生徒指導実践のため全校体制で指導にあたるよう、生徒指導部会を充実させ、一人ひとりの状況に配慮しながら段階的な粘り強い生徒指導を推進する。また、回覧する記録を通じ、生徒の共通理解を図る。	B	【達成状況】保護者の肯定的回答が 73.5%と数値指標より低かったが、他は数値指標を超えた。 【次年度の方針】教職員の危機意識を高め、報連相の徹底と組織的な対応を図る。全教職員で積極的な生徒指導による生徒の規範意識向上に努める。

健康・体力	A12 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 肯定的回答80%	学校行事の練習だけでなく昼休みの運動など積極的な取り組みを支援する。	B 【達成状況】肯定的回答が教職員 74.1%、生徒 70.8%であった。冬場の昼休みの体育館開放は、運動量確保に役立っていたが校庭での昼休みの遊戯状況は現状が妥当であると考え。(1学期に若干のボール等接触のけもあった。) 【次年度の方針】冬場の昼休み体育館開放の継続。(片付け・監督の徹底) また、学年での長縄とび大会やドッジボール大会の昼休みの練習時における校庭の活動場所を区割るなどの工夫をする。
	A13 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	家庭科・保健や学級活動の授業を通し食育のねらいとする食事の重要性、食文化、食品選択能力等の知識を身につけさせるとともに、日常の給食指導を通して配膳の工夫や食事マナー等を修得させるなど食育の推進を図る。 「給食献立表」や「食育だより」を配布し、バランスのとれた食生活の大切さを理解させる。	B 【達成状況】肯定的回答が教職員 67.9%生徒 75.3%であった。給食メニューの工夫や調理の工夫が見られたのは良かった。しかし、若干クラスによって給食残量に差があったのが現状である。 【次年度の方針】3年生が部活動引退後に残量が増えてしまうので内容や量の工夫をする。また、給食器に実際の調理食材が入りきれない場面があったので、器を工夫する。さらには、給食委員会の給食メニューの放送説明や学級担任による積極的に食し、残さず食べるような意識付けを図る。
	B5 <u>授業や部活動などで一人一人が課題を持って体力の向上に取り組んでいる。</u> 【数値指標】 肯定的回答80%	体力向上に向けた研究を行い、体育科を中心に、繰り返し継続して行う学校全体の体力向上計画を作り、年間を通して実施する。また、 <u>全校体制で、投力の育成に取り組む。</u>	B 【達成状況】すべての対象において数値目標を上回った。体育の授業の中では長距離走等で、生徒自らが目標を持ち達成した成就感をもって運動し、意欲的に取り組んでいた。 【次年度の方針】運動部活動においても、個々の生徒に応じた練習メニューの設定なども、考慮し体力の向上を図る。さらに部活動への積極的な加入も引き続き促す。
学習	A14 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	学習の目的を理解させ、意欲的に学習に取り組める授業を展開する。	B 【達成状況】すべての対象に於いて肯定的な回答の割合が80%を超えており、良好であった。 【次年度の方針】各教科で学校課題「意欲的に学習に取り組む生徒の育成」を意識した指導法の工夫を継続していく。
	A15 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	学習の約束(チャイム着席・始業時のあいさつ・学習態度・発表の仕方・ノートのとめ方)など教科共通の学び方や教科特有の学び方を身につけさせる。	A 【達成状況】生徒以外の肯定的な回答割合は高いが、生徒は65.7%と極端に低い。学年が上がるにつれ、肯定的な回答割合が高くなるものの、1学年では学級差が激しい。 【次年度の方針】学級に差が出ることの原因を追及し、手だてを講じるため、生徒へのアンケートを実施し、現状を把握し教師・生徒ともに授業に対する共通理解を再確認する。
	B6 学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考え発言している。 【数値指標】 肯定的回答80%	学習のねらいや育てたい力を明確にして、指導と評価を一体化させた学習を展開する。	B 【達成状況】教職員・地域・生徒ともに評価は高いが、保護者の肯定的な回答の割合は77.1%であった。 【次年度の方針】ねらいや目的の理解は定着しているものの、「振り返り」の意識が教師・生徒ともに低いため、「振り返りカード」の利用を検討中。加えて、保護者への啓発に努める。

本校の特色・課題等	B7 総合的な学習等において、自らの課題が設定され、地域をフィールドにした調査研究活動が行われている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	地域をフィールドにした調査研究活動が意欲的に行われるよう、発達段階に応じた生徒の興味・関心に基づく適切な課題を設定させる。	【達成状況】生徒の肯定的回答は 83.8%であったが、教職員・保護者は 77%前後であった。 【次年度の方針】1年・2年は地域をフィールドとして学習することが明確に感じられるが、3年生は「修学旅行」が題材のため、理解が得られにくい可能性がある。教職員への共通理解と保護者に対する3年間の系統的な指導の在り方を理解していただけるよう啓発活動に力を入れていく。
-----------	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

生徒は明るく楽しい学校生活を送っている。授業や部活動、学校行事に意欲的に取り組んでいる。日常のあいさつや、言葉遣いも多く生徒が、時と場に応じて適切に行っている。本年度の目標は達成されているものが多いが、さらに充実していきたい。

1 学校運営の状況について

- ・ A1（活気がある）、A2（熱心な指導）、A6（教育課程）A7（情報発信）B2（時間）については全対象で高い評価を得ている。
- ・ A5（いじめ対策）で教職員・生徒は2から3ポイント下がり、保護者は14.7ポイント、地域住民は19ポイント下がった。いじめをなくすための集会やアンケートの定期的実施、道徳の授業での取り組みなどを充実させるとともに保護者・地域住民にもその実践のことを周知していきたい。

2 教育活動の状況について

- ・ A14（積極的に学習）、B5（体力の向上）については全対象で、B6（学習）については教職員・生徒が数値指標を達成している。学習関係については、授業力向上プロジェクトとして取り組んでいることの成果として捉えられる。
- ・ A13（給食を食べる）で教員が5.5ポイント、地域住民が12.5ポイント、生徒が2.6ポイント下がった。家庭と協力した食育の充実が考えられる。
- ・ A15（落ち着いた学習）では保護者・生徒が下がり特に生徒は7.2ポイント下がった。下がった原因の追及と手だてを検討し実施する必要がある。

3 肯定的割合の特に低いものについて

- ・ 1・2以外では教職員はA9（整理整頓）69.1%、保護者はB4（生徒の規範意識）73.5%である。それぞれ組織全体として環境美化・規範意識の向上に取り組んでいきたい。

4 次年度への課題

- ・ 地域住民の肯定的割合の増加・減少が大きかったが、評価者の増加によるものが大きいと考える。これからも地域の方々の来校を進め、さらに開かれた学校づくりに努めていきたい。
- ・ 保護者、地域への情報提供を進め、学校便りや各たよりでの広報活動を充実していきたい。
- ・ 全体として肯定的割合が下がったものが多かったので、来年度はそれを戻せるように全教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきたい。

6 学校関係者評価

- ・ 全体として肯定的回答割合等から見て正直に真摯に答えていると思われる。
 - ・ 質問項目から考えて、地域住民の評価については参考程度とし良いのではないかと。前年度を下回っているものは少ないので同程度に目標を達成できていると考えて良いと思う。
 - ・ 肯定的回答割合が60%代のものについて、来年度に生かしていくことがよい。
 - ・ 住民が答えようのない、調べようが無い項目がある。答えが出る質問になると良い。保護者が答えられないものは質問項目からはずしても良いのではないかと。
 - ・ 地域住民のアンケート回答数を増やすには自治会長への依頼があると増やせて良いと思う。
- 【A5 いじめ対策について】
- ・ いじめ対策での保護者の肯定的回答の割合が小学校でも同じように低い現状がある。行っていることを便りなどで伝えていく必要がある。
 - ・ いじめ対策で生徒の数値に大きな変化はないので問題はないと思われる。
 - ・ いじめの取組に関し保護者・地域住民の肯定的回答割合が減少したが説明をきっちりと行うことが大切である。
- 【A7 情報の伝達について】

- ・保護者に学校の中での取組の様子などが伝わりづらく情報を得にくい事があるようだ。
- 【Ａ９ 整理整頓について】
- ・職員、生徒の肯定的回答の差が大きいが、統一した見方があると良いのではないかと思う。
- 【Ａ１０ あいさつについて】
- ・学校での生徒のあいさつはとても良い。校外と校内では差が見られるが、それは普通と考える。
 - ・あいさつすることを自主的に向上させるために色々な工夫があると良いと考える。
 - ・あいさつや言葉遣いの肯定的評価が 80%を越えとても良い。
 - ・気持ち良いあいさつをしている。狭い敷地にも拘わらず、生徒は元気に過ごしている。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 27年度の実践は、おおむね適切であるとの評価を受け、継続して取組を進めていきたい。その中で改善や工夫が必要との指摘を受けた点、指導の充実の必要性が言われた点は検討を進め28年度の学校の経営に生かし効果を上げたい。
- 1 特色ある学校づくりの中の「授業力向上と体力向上のプロジェクト」については成果が上がっている状況があるので、さらに授業研究を進め授業力を高めたい。また、全校体制での投力向上・体育の授業の中での補強運動等に取り組み、向上させたい。
 - 2 地域の人材を活用した総合的な学習の時間や学校行事の充実に関しては、地域人材の発掘と講演会や課題解決学習のさらなる充実を図る。また、生徒の各種の活動を保護者・地域に発信するなど広報活動を充実させたい。
 - 3 A5のいじめ対策に関しては生徒主体の集会やアンケートの実施など学校での取組の保護者への周知を工夫していきたい。
 - 4 A13の給食を食べるについては、地域学校園での小中連携した取組や、家庭と協力して様々な機会での指導など食育の充実に努めたい。
 - 5 B4の規範意識については、学校組織全体で学校教育全体を通して地道な指導を積み重ね高めていきたい。